

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R8(2026).6.18

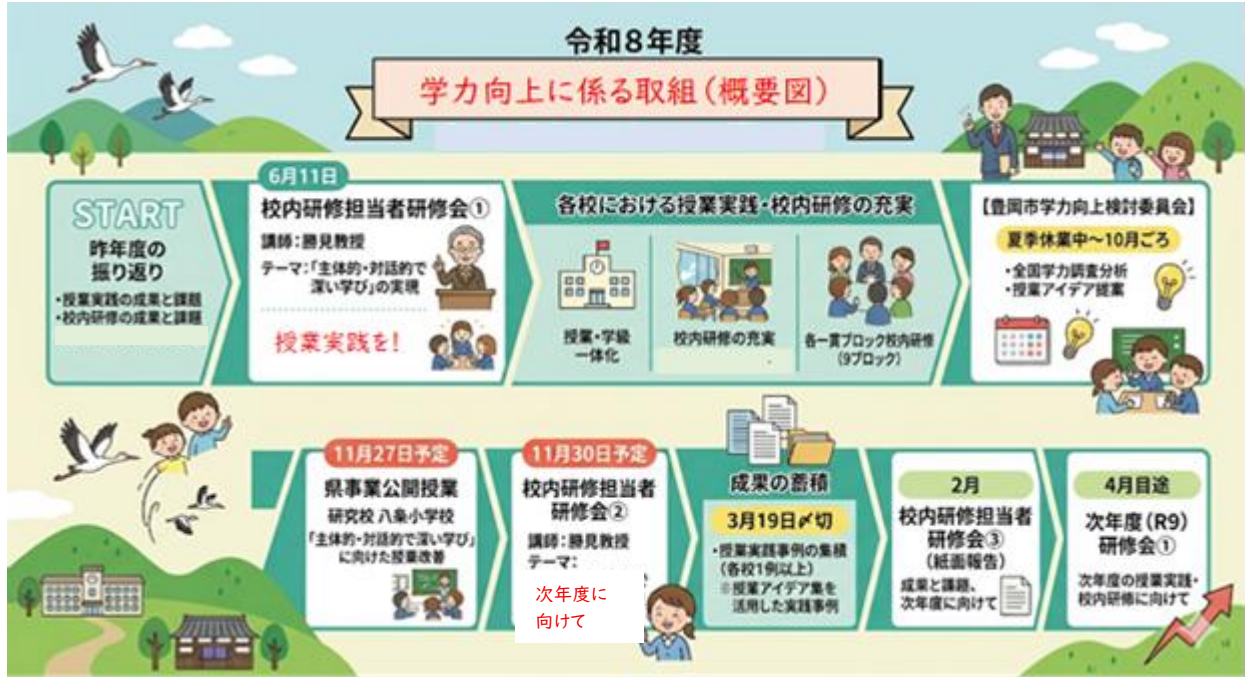
No.5

豊岡市のホームページにもアップしています。

豊岡市 HP→上段「暮らし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ

令和8年度 豊岡市第1回校内研修担当者研修会より

1 豊岡市の学力向上に係る取組について



2 グループ協議…小中一貫の視点から一貫ブロックの小中学校の研修担当者で行いました。

テーマ…「どのようにして今年度の校内研修のテーマを決めたのか?」

「昨年度の学力調査による検証分析を受けた改善策の各校の実践」について。

・学力調査とのリンク ・豊岡市が展開している授業づくりとの関連

・不登校児童生徒へのかかわり ・学力調査正答率40%以下の児童生徒へのかかわり

「自校の校内研修」について。

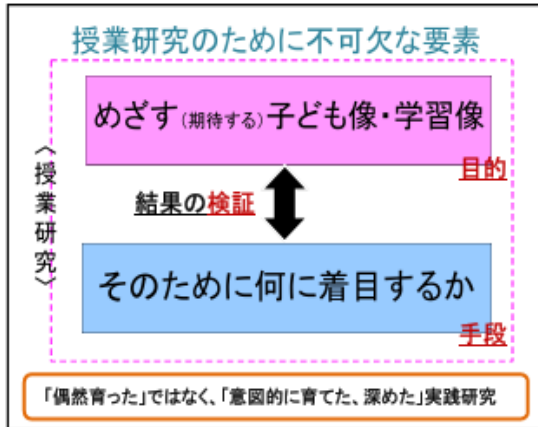
本研修を通して、実践交流の中で各校の取組や課題を共有することができ、大変参考になりました。また、具体的な小中の連携や校内での委員会の持ち方など、実際の運用について知る機会をいただき、自校の実践にも取り入れていきたい。

大切なことは、児童生徒をしっかり理解し、その理解から手立てや支援を考えていかねばならないと思いました。今年度の研修が自校の教職員、子どもの成長につながるよう取り組んでいきたいと思いました。

やはり、こどもの実態と教師の願いをつなぐのは確かな教材研究だと感じました。一人ではなく、同僚や管理職も交えて授業の話ができる、そんな集団になっていけたらと思います。

他校の研究内容や設定理由をお聞きし、具体性があり、今年度すべきことが明確になっていて素晴らしいと思いました。私もアウトプットすることにより、本校のすべきことが整理され、足りないことが分かりました。今年度は、昨年反省を生かして事後研修を充実させたい。

○授業研究するために不可欠な要素について



○最近よく見かける授業研究

【主体的な学び】

- ▲子どもにすべて放任(子どもは楽しそう、しかし思考していない)
- ▲「困ったら相談しにおいて」(教員は座ったまま関与しない)
- ▲授業末にとりあえず「振り返り」(感想にとどまる)

【対話的な授業】

- ▲意見が出ないときのペア学習。
- ▲なぜ、何を、どう話し合えばわからず「とりあえず喋る」。
- ▲順に発表して「たくさん意見が出たね」でおしまい。

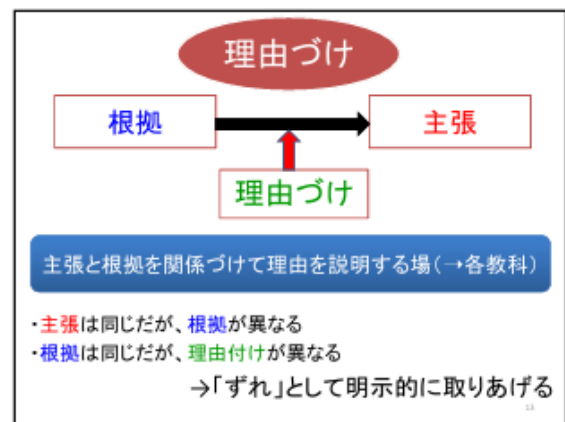
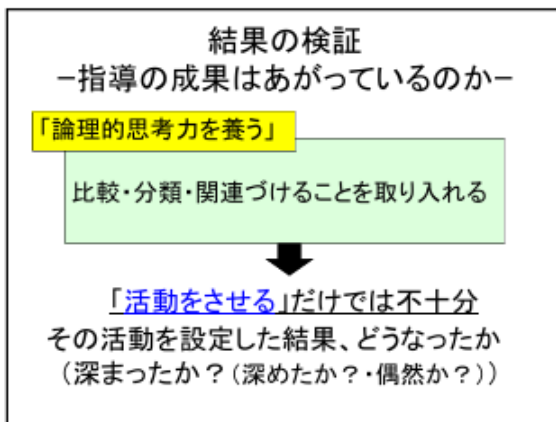
【しんどい子どもも参加できるように】

- ▲「授業で子どもが動かない」⇒「やっぱりUDでしょ」へ
- ▲教材名、指導目標がそのまま単元名になっている。
- ⇒追究したくなる学習課題になっているか。

☆つまり…「委ねる」ための教師の関与を軽視、教科として賢くなる(深まる)ことを看過していないか。
 深まらない(深める気がない)対話:対話している活動の姿さえあればよい授業になっていないか。
 授業が易化、魅力的な活動の減衰:結果として、できる子も荒れる授業になっていないか。

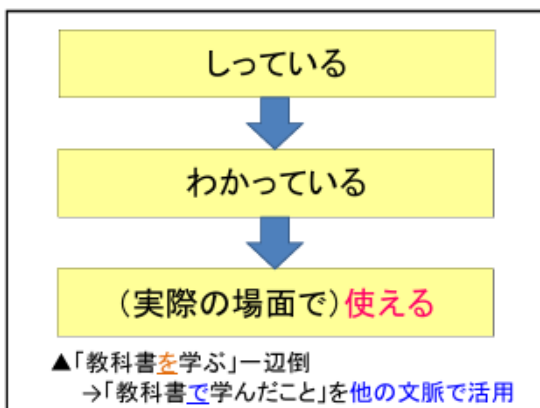
○校内研修(授業研究)で大切にしていきたいこと①

自分の考え方の創り方・視点、思考の仕方を“教える” ⇒ 考えの「ずれ」を話題にして教科として深める

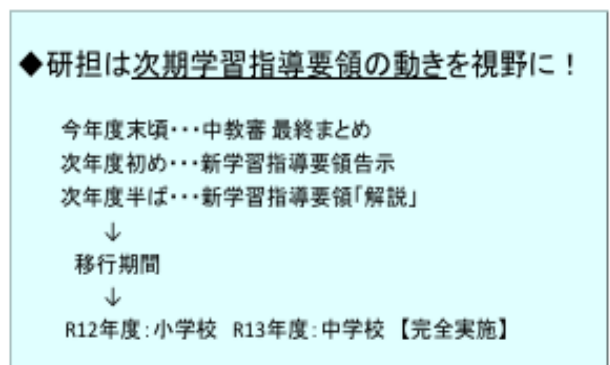


○校内研修(授業研究)で大切にしていきたいこと②

”具体的な目的や状況に応じた“解決の弱さ ⇒ 解決していく上で思考判断しなければならない「条件」の存在を明示的に話題にする



○校内研修(授業研究)で大切にしていきたいこと③



各校において、先生方がテーマを共有して「まずはやってみる」の姿勢が大切です。授業研究、指導案研究等含めて同僚の先生方と共に子どもの学びを支える一年にして欲しいと思います。チャレンジの年に!